

PRAEVIDENTIA DAILY (6月10日)

昨日までの世界：ユーロが再び下落

昨日は追加材料はなかったものの、先週木曜の ECB 追加緩和措置が徐々に効くかたちでユーロが再び下落し、ユーロ/ドルがやっと先週木曜の ECB 政策理事会前の水準（1.36 ドル丁度近辺）を下回ってきたほか、対ポンドでも 0.81 ドル丁度を再度割り込み先週木曜の直近安値（ポンド高値）である 0.8065 ポンドに近づいた。

また、先週金曜の米雇用統計後に上昇した新興国通貨のうち、南アランドやトルコリラなどが大きく反落したのも特徴的だった。

他方、ドル/円相場は 102 円台半ばを挟んだ狭いレンジ内の動きとなった。本邦経常収支は季節調整後計数で +1305 億円と黒字化したものの市場予想を下回ったことから、発表後にドル/円が若干強含みとなったが、その後欧州時間にかけて軟化した後、NY 時間は米長期債利回りの小幅上昇や米株高を受けて再び強含み、狭いレンジ内の動きとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.02	+0.02	+0.00	+0.01	+0.02	+0.00	+0.1	+0.3	+1.7	+1.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.4	-0.01	+0.01	+0.02	+0.01	+0.03	+0.02	+0.4	+0.1	+1.3	-0.09
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.0	+0.01	+0.03	+0.02	+0.03	+0.04	+0.02	+0.2	+0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.2	-0.01	+0.01	+0.02	-0.01	+0.01	+0.02	+0.1	+0.0	+0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.1	+0.01	+0.03	+0.02	-0.01	+0.01	+0.02	+0.1	+0.0	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	+0.02	+0.02	+0.00	+0.02	+0.02	+0.00	+0.1	+1.7	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：豪住宅市場はどこまで鈍化するか

きょうの注目通貨：AUD↓、EUR/GBP↓

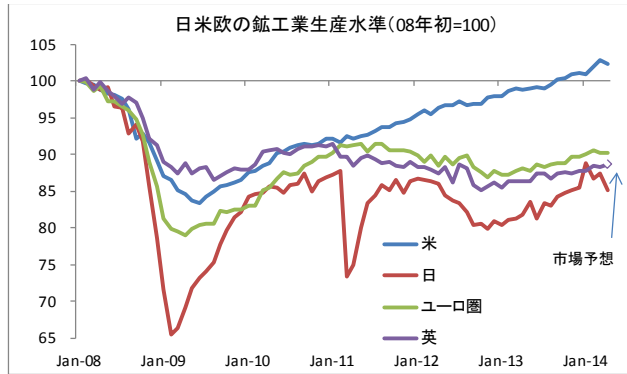
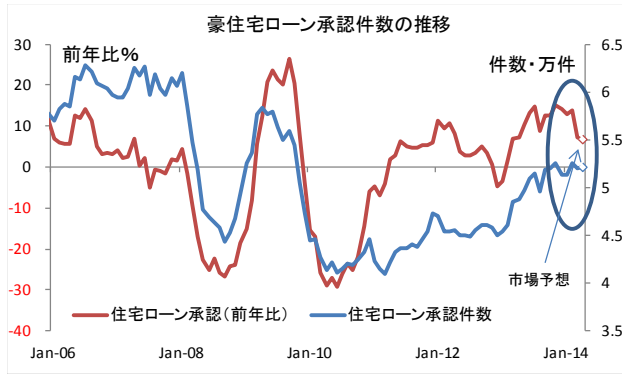
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 5 月 CPI 前年比	10 : 30	+1.8%	+2.4%	今年の政府目標は 3.5%
豪 5 月 NAB 企業信頼感	10 : 30	6	なし	
豪 4 月住宅ローン・前月比	10 : 30	-0.9%	+0.2%	
Liikanen フィンランド中銀総裁発言	16 : 00			
英 4 月鉱工業生産・前月比	17 : 30	-0.1%	+0.4%	
同・前年比		+2.3%	+2.8%	
Mersch・ECB 理事発言	23 : 00			
Stevens・RBA 総裁発言	1 : 00			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も材料が少ないが、敢えて市場を動かしそうな材料を挙げれば豪住宅ローンと英鉱工業生産だろう。豪州では足許住宅関連指標が鈍化していることから(下図左を参照)、市場予想通りプラスに転じるかが注目され、再びマイナスに陥る場合には年内利上げ開始観測が更に後退して豪ドル安に繋がるだろう。なお、中国 CPI については市場予想が+2.4%と前月から大きく伸び率が高まる予想となっているが、政府目標の+3.5%からすれば低く、市場予想を下回った場合の追加緩和観測に繋がろうが、中国当局は既に足許、預金準備率の部分的

な引下げに動いており、CPI がトリガーとなって追加措置が取られるかは不透明だ。

英国では経済成長の牽引役がサービス業や不動産などであることから、製造業ひいては**鉱工業生産**の重要性は低い。過去 2008 年以降指数化したものを日米欧と比較しても（**下図右を参照**）、振れの小ささと足許の回復の鈍さが目立っているが、それでもポンドは住宅市場やサービス業などの堅調により堅調が続いている。とはいえ、足許のポンドの焦点は年内の利上げ開始があるかであることから、市場予想を上振れする場合の早期利上げ観測の高まりとポンド高の可能性の方が大きいとみられる。特に、ユーロ圏との金融政策の方向性の違いは対照的であることから、ポンドは対ドルもさることながら対ユーロの方が下落し易いだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641